

大腸癌(進行・再発)

3rd Line

# Panitumumab療法

( )コース目

患者ID: @PATIENTID

患者氏名: @PATIENTNAME

身長 (cm)	体重 (kg)	体表面積 (m <sup>2</sup> )
\$HEIGHT01_Doc	\$WEIGHT01_Doc	#VALUE!

投与スケジュール: 1コース 14日。

使用基準: KRAS遺伝子野生型。適正使用ガイドに準じる。

※ 投与中・投与終了後少なくとも1時間はVital signのチェック(Monitor装着を推奨)

※ Infusion reactionに要注意

重度のInfusion reaction (アライキ様症状、血管浮腫、気管支痙攣、発熱、悪寒、呼吸困難、低血圧等)が発現することがある。2回目以降の投与時に初めて発現することもある。

Grade3以上: 投与中止。再投与しない。 Grade2以下: 投与速度を減じて慎重に投与。

※ 血清中電解質(Mg、K、Ca)のモニターを定期的に行うこと。

投与開始前、投与継続中(月1回程度)、投与終了後最低8週間

※ 皮膚症状には早期から積極的な対応を行うこと。

## 《使用薬剤》

パニツムマブ: パニツムマブ (1V: 100mg/5mL)

投与量:

薬剤	標準投与量	計算値 (mg)	投与量 (mg)	投与日
パニツムマブ	6 mg/kg	#VALUE!		1

<< タイムスケジュール: 開始時刻 >>

※記載している時刻は例です。当日の投与予定時刻ではありませんのでご注意ください。

7月12日 (月)	0時00分	①	生理食塩液 100mL 血管確保用に速度適宜に点滴静注	
	0時15分	②	生理食塩液 100mL + パニツムマブ注 mg 0.2μm or 0.22μmのフィルター一体型輸液セットを使用する 1時間で点滴静注 ※ 投与量>1000mg/回: 生食150mLに溶解、90分以上かけ点滴静注	0.0mL
	1時15分	③	生理食塩液 100mL (①残薬の使用可) 1時間程度で点滴静注	

FOLFOX療法またはFOLFIRI療法と併用することができる。

その場合、FOLFOX療法(1st Line)、FOLFIRI療法(2nd Line)の前投薬の次に②③を実施する。

## REFERENCE

Rafael G Amado, Michael Wolf, Marc Peeters, et al

Wild-type KRAS Is Required for Panitumumab Efficacy in Patients With Metastatic Colorectal Cancer

J Clin Oncol 26:1626-1634, 2008

2010年7月度化学療法プロトコール審査委員会承認: 2010年7月12日